専大スポーツ
No.336
大会結果、予定は体育会ホームページ（専大ホームページ「スポーツ」からアクセス）でご確認ください
専大スポーツ編集部 web(http://sensupo.com/) でも大会結果を配信しています

3年ぶり 最優秀団体賞・校友会賞

11団体134人（重複を含む）を表彰

第53回体育会表彰式

第53回専修大学体育会表彰式・祝賀会が3月19日、東京・九段下のホテルグランドパレスで行われた。2013年度に優秀な成績を収めた11団体134人（重複含む）が表彰され、石崎徹体育部長代行から賞状と記念品が授与された。

最優秀団体賞・校友会賞にはスピードスケート部が3年ぶりに選ばれた。

最優秀選手賞・育友会賞は、ソチオリンピックに出場したスピードスケート部の近藤太郎（経営1・駒澤大附苫小牧高）が受賞した。専大の在学生が冬季大会に出場したのは20年ぶりの快挙。また、1年次生ながら数多くの大会で優秀な成績を収めた近藤は、最優秀新人賞にも輝いた。

（森本雅美・文2）

最優秀選手賞・育友会賞
スピードスケート部 **近藤太郎**
最優秀新人賞

▽フォールクラシック国際競技会1500㍍＝2位
▽全日本スピードスケート距離別選手権1000㍍＝2位／1500㍍＝2位
▽ワールドカップ（第1～4戦）日本代表
▽ユニバーシアード競技会1000㍍＝9位／1500㍍＝13位
▽ソチ五輪日本代表選手選考競技会1000㍍＝2位／1500㍍＝2位
▽日本学生氷上競技選手権1000㍍＝優勝／1500㍍＝優勝
▽ソチ冬季オリンピック競技会1000㍍＝35位／1500㍍＝31位

近藤は「たくさんの賞を頂き、うれしい気持ちと同時に、来シーズンも頑張らなければならないと思います」とコメントし、「世界との差をとても感じました。その差を埋めるためにどうしたらいいかを考えながら、4年後の平昌オリンピックを目指し、少しずつ成長していきたいです。今回のオリンピックは精神的に追い詰められ、楽しんでプレーすることができませんでした。楽しむ気持ちを忘れずにプレーするのも目標です」と今後の抱負を述べた。（森本）

▶ソチ五輪のスピードスケート男子1000㍍で滑走する近藤（35位）＝ロシア・ソチのアドレル・アリーナで2月12日、山本晋氏撮影　毎日新聞社提供

都合により写真を掲載いたしません。
紙面をご覧ください。

スピードスケート部

▽日本学生氷上競技選手権【スピード部門】＝優勝
田中洸司主将（経済3・苫小牧工高）の話　栄誉ある賞を受賞できたことを感謝します。今シーズンは、一人ひとりが積み上げてきた力を発揮したことがインカレ総合優勝に結びついたのだと思います。追いかけられながらも勝っていけるチームを目指します。

ソチに開花

冬季五輪フリースタイルスキー女子ハーフパイプ
小野塚選手が銅メダル

ソチ冬季五輪フリースタイルスキー女子ハーフパイプ（2月20日、ロザ・フトル・エクストリーム・パーク）でスキー部OGの小野塚彩那選手（平22商＝石打丸山スキークラブ）が見事銅メダルを獲得した。

ソチの空を高く、高く舞った。予選1回目の最初のエアで3・4㍍と高いエアを見せ会場を沸かせた。その後のエアをミスなく滑り83・80点を叩き出し、予選4位で決勝進出を決める。決勝1本目も勢いよく高いエアを見せるが決勝ということもあり、少し力んでしまったのか、着地が乱れ、納得いかない面持ちであった。この時点で3位につける。続いて決勝2本目。いかに調整し、より高得点をマークし表彰台圏内に入るかが試される。先に競技をするほかの選手たちが高得点を目指し相次いで転倒するなか、小野塚選手は、高さ3・1㍍のエアをはじめ次々と軽やかに高く宙を舞った。難度の高い技で攻めるのではなく、高さ一本の演技だったが、見る者を魅了する力にあふれた舞で、銅メダル獲得を決めた。

アルペンスキーから転向して2年半での快挙。新種目の初代メダリストとして満面の笑顔で表彰台に上った小野塚選手。彼女の活躍は私たち専大生の誇りだ。（森本）

▲銅メダルを手に笑顔を見せる小野塚彩那選手＝ロシア・ソチの五輪公園で２月21日、貝塚太一氏撮影毎日新聞社提供

都合により写真を掲載いたしません。
紙面をご覧ください。

スキー 清水
川島記念特別功労賞

▲得意なクロスカントリーで好調な滑りを見せる清水㊤。㊦はジャンプ競技＝撮影・森本

スキー部の清水亜久里（商4・新井高）が川島記念特別功労賞を受賞した。授与式は体育会表彰式に先立って行われ、日高義博理事長から賞状が、矢野建一学長から記念メダルが授与された。

この賞は、国際競技大会で高位の入賞を果たした学生を表彰するもの。

清水は2011年、ユニバーシアード冬季競技大会（トルコ・エルズルム）のノルディック複合個人マススタートで金メダルを獲得した際にも受賞しており、2度目。

清水は昨年12月、イタリア・トレンティーノで行われた第26回ユニバーシアード冬季競技大会ノルディック複合個人マススタートで優勝し、連覇を達成。同グンダーセンは3位。ノルディック複合団体でも日本の3位入賞に貢献した。

「自分の思うようなプレーができず、結果も出せない悔しいシーズンでしたが、賞をいただいたことに感謝し、励みにしながらこれからも頑張りたいと思います」と語った。

2年ぶり優勝
国体

国民体育大会冬季大会スキー競技会（2月21～24日、山形県）のコンバインド成年男子Aで清水が2年ぶりに優勝した。（生山佳・人間科学1）